

捨てたのは

「ごみ」ですか それとも「モラル」ですか

「ごみ持ち帰り運動」を考える

風光明媚な海岸線を眺め、青く透き通る海原で海水浴を楽しむ皆さんの観光客。年間100万人を超える行楽客が訪れる当町において避けて通ることのできないのが「ごみ」問題です。ごみ対策の町の財政負担や今後のごみ対策のあり方について、皆さんと一緒に考えてみましょう。

## お金で買えない価値

## 自然景勝型観光地の責任

**積**

丹町は、その町名の語源であるアイヌ語が由来となっており「夏の集落・夏の場所」が表すとおり、夏季にはたくさんの観光客が訪れ、美しい自然や豊かな味覚を堪能したりと行楽客で賑わいをみせます。その一方で、必ず発生する「ごみ」の処理が大きな行政課題の一つとなっています。

当町は、ニセコ・積丹・小樽海岸国定公園の指定、また平成16年度には「積丹半島と神威岬」が北海道遺産に選定されるなどその美しい景観は積丹町が誇る貴重な財産であり、後世に末永く保存継承することが私たちに課せられている責務でもあります。

**し**

しかし、観光シーズンの到来とともに、海岸線のいたるところには残念なことに「ポイ捨て」されたごみが目立ちます。楽しいはずの海水浴もごみがあるところは楽しさも半減し、また割れたビンなどは、ケガや事故の原因にもなります。

美しい景観を保存するためには、町を挙げた地域ぐるみによるPR活動を推進しながら、地元住民はもとより観光客の環境美化に対する国民的意識の高まりが不可欠です。

商工会女性部の「花いっぱい運動」や婦人会や老人クラブ、小学校児童による町内清掃などそれぞれが「きれいな町」を目指し、独自の取り組みを行っています。

そこで町では、この運動を一歩進め、今年7月から9月まで

の観光シーズンを「ごみ持ち帰り運動」の重点期間と位置づけ町を挙げてごみの減量化と不法投棄の未然防止を目指すための取り組みを始めました。

「ごみ」はだれが処理するの？  
これまでの現状と対策

**町**

では、これまで海水浴客で賑わう海岸線などにごみ箱を設置して、各地区に配置して

いる美化清掃員が観光トイレの清掃や散乱ごみの集積や分別を行い、一般家庭から排出されるごみと同様に町費で収集・分別などの処理をしています。しかし、平成8年の積丹半島周遊道路の開通や近年の余暇時代の到来とともに観光客の入り込み数が増加、それに伴い観光トイレの維持費や資源ごみの分別経費など海岸線を中心とした美化清掃にかかる経費も膨らみ、年間予算2千万円以上を投下している状況です。

**町**

では、マナーの悪い観光客ごみ対策に悩んだ末、思い切ったこの夏から海岸線に設置していたごみ箱を撤去しました。

運動では、7月17日の啓発用看板の設置を始まりに町内外から多くの関係機関・団体に参画いただき、7月27日と8月4日には、海水浴客で賑わいを見せる海岸線で持ち帰りを呼びかける啓発用チラシなどを配布。また8月27日には町内全域のクリーン作戦を実施しました。

町内会や婦人会などの団体で





美国宝寿会による憩の広場清掃(9/21)



あったかネットワークによる茶津海岸清掃(9/12)



**Voice** ごみ問題を身近に



積丹観光協会  
会長 佐藤 勝次さん

どれだけ美しい景観を有していても、ごみが散乱しては観光客がっかりするし、観光のまちとしてはとても恥ずかしいことです。

ごみ問題は、とても身近な部分で観光関係者が率先して取り組むことで地域住民の意識の高揚を図り、地域全体の意識の共有化に努めていきたい。ごみ拾いは決して『格好悪い』ことではなく、むしろ『格好良い』こと。これからも観光関係者が手本となるような取り組みを考えていきたい。

**奥** 山均町商工観光課長は、「今回の結果で全てが解決するわけではなく、積丹を訪れる観光客のマナー向上には地道な取り組みと対外的なPRがこれからも必要」と運動の継続性と「一町だけの取り組みだけでは効果が薄い。今後は近隣市町村と連

### 広域的な展開に

着にはまだまだ時間がかかるようです。一方、住宅近くの海辺に家庭ごみが捨てられている箇所もあり、長年の生活習慣なのでしようか。

3000人の町民が100万人を超える観光客のごみ処理費を負担し続けることは限りがあります。

地域住民が観光地としての意識を強く持ち、一人ひとりが、ほんの少しの心がけと勇気を持って持ち帰りを呼びかける気持ちですが、やがて他の市町村へと大きなうねりとなり拡がりを見せます。きれいな町づくりに観光地としてのごみのあり方について、今一度考えてみる必要があるのではないのでしょうか。

**Voice** 美しい自然景観を後世に



積丹町商工会女性部  
部長 葛西 幸子さん

女性部では、平成8年から「花いっぱい運動」に取り組み、街路樹や花壇へ植え込みを行い四季折々の花々で町を彩り観光客の目を楽しませるなど、きれいな町づくりの一端を担ってきています。

「積丹の景色はすばらしい。」「砂浜はきれいだね。」と言ってくれる観光客は多く、景観や海水浴などで訪れる方々の期待に反することのない取り組みがこれからも大切だと考えます。この美しい自然景観は後世に伝承していきたいですね。